

所属・資格 心理学科・助教

申請者氏名 狩野 武道

研究課題		大学生における無気力の心理学的研究——新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて——
報告の概要	研究目的 および 研究概要	新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化と大学生の無気力との関連性について検討することを目的とし、本研究を実施した。2019年、2020年、2021年（以下、Time1,2,3と呼称）、それぞれ7月に調査が実施された。調査対象はX大学の大学生であり、対面、あるいはオンライン学習管理システム上で研究に協力を要請し、オンライン調査を実施した。Time1は179名、Time2は182名、Time3は96名を分析対象者とした。使用した質問紙尺度は(a)意欲低下領域尺度、(b)アパシー心理性格尺度の一部、(c)抑うつ気分尺度等であった。
	研究の結果	実施時期と学年を独立変数、意欲低下領域尺度の下位尺度（学業意欲低下、授業意欲低下、大学意欲低下）、アパシー心理性格尺度の下位尺度（張りのなさ、自分のなさ、味気のなさ）、抑うつ気分尺度を従属変数とした、2要因分散分析を実施した。その結果、“大学意欲低下”と“味気のなさ”において、実施時期、学年ともに主効果が有意であった。主効果が有意だった“大学意欲低下”について多重比較を実施した結果、Time1・Time2よりも、Time3の方が有意に高かった。また、3・4年生よりも、1・2年生の方が有意に高かった。主効果が有意だった“味気のなさ”についても多重比較を実施した結果、有意傾向ではあるがTime3がTime1よりも高いことが示された。また、3、4年生よりも2年生の方が有意に高かった。
	研究の考察・反省	新型コロナウイルス感染症流行前のTime1や、新型コロナウイルス感染症が流行した年の7月に実施されたTime2に比べ、新型コロナウイルス感染症が流行し1年が過ぎたTime3の方が、大学生生活に対する意欲低下や活気が欠如した状態が高いことが示された。新型コロナウイルス感染症流行後、大学授業のオンライン化や入構制限、活動の自粛等が実施され、それらが、大学生生活に対する意欲や活気を減退させた可能性があるかもしれない。その影響は、とくに入学年度が新型コロナウイルス感染症流行後であった1、2年生において、顕著であったと考えられる。大学生生活に対する意欲や活気を維持するためには、入学年度に充実した大学生生活を送ることができるかどうか重要な可能性が推察された。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【現在論文投稿準備中】</p> <p>テーマ：新型コロナウイルス感染症流行前後の大学生の無気力に関する検討</p> <p>※現在論文執筆中。令和6年度中に科学雑誌に投稿予定。投稿予定雑誌はこころの健康（日本精神衛生学会誌）</p>	